

新型コロナウイルス感染症の透析治療シミュレーション

新型コロナウイルス陽性患者の透析治療に備えて、透析室内のゾーニングや個人防護具(PPE)のガウンテクニックについてのシミュレーションを行いました。

新型コロナウイルス陽性透析患者1名に対して、以下のメンバーを構成して透析治療を行う想定としました。

1. コロナウイルス陽性患者に直接接触する職員2名
(看護師1名、臨床工学技士1名)
2. コロナウイルス陽性患者搬送時の誘導など、間接的に携わる職員3名
(看護師1名、臨床工学技士2名)



以上の5名でチームを構成し、病棟から透析室までの搬送の手順や透析室をレッドゾーン、イエローゾーン、グリーンゾーンに区分けし、各ゾーン出入り時のPPEのガウンテクニックなど、実際に透析室で新型コロナウイルス陽性者の透析を行うことを想定した訓練を行いました。



一つ一つの行動を確認しながらマニュアルの見直しも行いました。

このシミュレーションで出来なかったことやマニュアルの不備も明確になり、今後も定期的な開催する必要性を感じました。



【シミュレーションに参加したスタッフの感想】

・頭の中では理解できていても、手順通りに実践がスムーズにいかなかった。ゾーニングと自分の役割を認識できていないと感染防止ができないのでシミュレーションは必要と感じた。レッドゾーン内、イエローゾーン内での動線をスムーズにするためには、コミュニケーションが必要と感じた。定期的にシミュレーションを行い、おかしいと思うところは修正する必要があると思いました。(看護師)

・シミュレーションを実行することによって必要な点や不必要な点を発見することができ、意見をすり合わせることで、今後より確実な対応ができると思いました。スタッフ全員が迅速かつ正確に対応できるようにシミュレーションは繰り返して行う必要性を感じました。(臨床工学技士)

・コロナの流行に伴い、私達医療従事者だけでなく患者様の感染予防に対する意識も高まっていると実感する毎日です。しかし、いつ誰が感染症に罹患するか分からない状況です。そういう状況でも透析治療を中断させることがないようコロナ患者受け入れのシミュレーションを行いました。感染症を媒介し院内感染を起こさないよう、更なるスタッフの意識向上と統一が必要であると感じました。患者様が安心して透析治療を継続できる環境を提供できるよう準備するより機会になりました。(看護師)

・役割を明確にするために役割を記入したプレートを首からぶら下げたらいと思う。シミュレーションを指揮する役割は1名にした方が良かった。訓練途中で色々な意見が出て混乱した。(臨床工学技士)

・実際にPPEを着ている人を見て、長時間装着して働くのは大変だと感じた。頭の中で流れが分かっているけど、実際にしてみると迷うことが多く、このままでは一つの行動に時間がかかってしまうと反省した。直ぐに覚えることは難しいが、実際に患者さんが来られた時はできるだけ透析室にいる時間を短くできるようにスムーズに動けるようにしたい。透析室は外来患者も使用するため、特に注意して換気・清掃をしっかりとやらなければいけないと感じた。(臨床工学技士)

・PPEの着脱に時間がかかり思うようにいかなかった。日常のガウンテクニックとの違いをスタッフみんなが理解し、スムーズに行えるようになるための訓練も必要と感じた。何度か訓練をしながら患者およびスタッフの安全を保つ手技を見つけていかないといけないと感じた。(看護師)